

令和6年1月の能登半島地震で犠牲となられた方々にお悔やみを申し上げるとともに、被災されたすべての方々、関係者の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

そして被災地域の一日も早い復旧と復興を心より
お祈りいたします。

シアトル日本語補習学校 PTA

PTAS SERVE AS A CHANNEL OF COMMUNICATION BETWEEN PARENTS, TEACHERS, ADMINISTRATORS AND THE SCHOOL COMMUNITY. THEY PROVIDE A PLATFORM FOR SHARING INFORMATION, DISCUSSING CONCERNS AND FOSTERING OPEN DIALOGUE. EFFECTIVE COMMUNICATION LEADS TO BETTER UNDERSTANDING, COLLABORATION, AND COOPERATION AMONG ALL STAKEHOLDERS, CREATING A MORE COHESIVE AND INFORMED SCHOOL COMMUNITY.

ФЕВРАЯ, 2024



SEATTLE
JAPANESE BOYS
GYMNASIUM PTD

НИИШ & ОССИ ОСВАПЪД VLADIMIR AVGVSTOVICH STENBERG 1927

THEY ENCOURAGE AND FACILITATE PARENTAL INVOLVEMENT IN SCHOOL ACTIVITIES AND DECISION-MAKING PROCESSES. WHEN PARENTS ARE ENGAGED AND TAKE PART IN SCHOOL AFFAIRS, IT CREATES A POSITIVE AND SUPPORTIVE ENVIRONMENT FOR STUDENTS. INCREASED PARENTAL INVOLVEMENT IS LINKED TO IMPROVED ACADEMIC PERFORMANCE, BETTER ATTENDANCE RATES, AND REDUCED BEHAVIORAL ISSUES AMONG STUDENTS.

事務局のお仕事

PTA MANAGEMENT

シアトル日本語補習学校
PTA だより 令和6年2月号

只今上映中

アラン T が PTA マネジメント の裏舞台にせまる!!

そこには補習校の過去と未来を
紡ぐ選ばれた精鋭たちの
熱い思いが織りなす
感動の物語があった。

ナンデネ

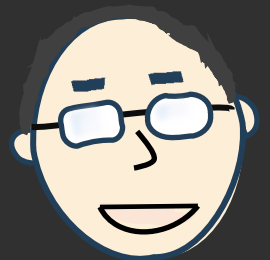
みなさん、こんにちは。

皆さんはPTA事務局ってどんなイメージをお持ちですか？

え？なにやら難しいことをゴニョゴニョやっているような感じだけど
謎めいていてよくわからない？

ですよねえ。うんうん。。

そんな皆さんの疑問に答えるべく、ルポ隊員のアラン T がいよいよ
PTAの本丸、事務局会に潜入取材を敢行して参りましたので報告
いたします。さてさて鬼がでるか蛇が出るか。。



まずはメンバー紹介からいきます！次ページへお進みください。



CHAIRPERSON MIA SHIMOARAI

自らをコミュニケーションのブリッジと称し、PTAと学校間の情報伝達を担う下荒磯 PTA 会長。先端の IT 技術力を惜しげなく提供し、私たちを未来へと導いてきました。今年度で退任する意向の会長。指し示す未来に見えるものは、次世代につなぐ架け橋なのかもしれませんね。

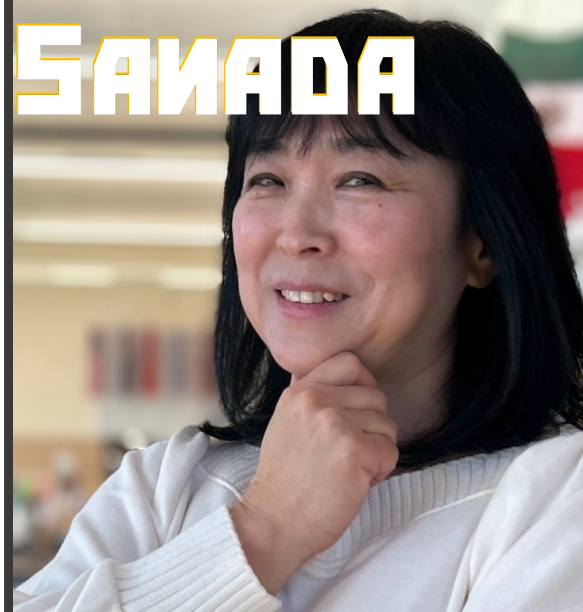


VICE CHAIRPERSON MIA NUMRICK

デービッド・ヌムリック PTA 副会長。気品ただよふたたずまいに卓越したコミュニケーション力で次代の補習校を背負って立つと期待されています。言わずもがなの完璧な日本語力に併せ持つ謙虚さ。澄んだ瞳に日本人の忘れかけた心を見つける人も多いのではないのでしょうか。



CHAIRPERSON MS SAWADA



真田 PTA 会長兼事務局長の座右の銘は「参加して楽しい PTA」。激務の中にも常に楽しさを見出す前向きな姿勢で長きにわたり貢献してきた功績は誰もが知るところ。PTAの歩くナレッジベースの別名を持つ鉄の女。魔力の笑顔で幾多の改革を補習校にもたらした英傑も今年度で勇退の意向だそうです。

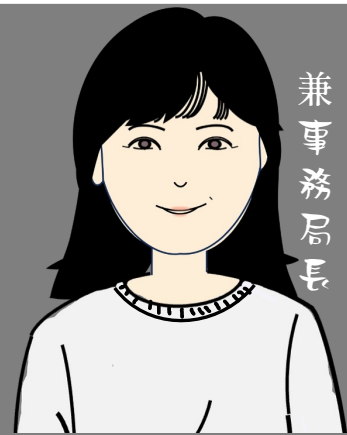


VICE SECRETARY GENERAL MIA MISHA

座右の銘は「人事を尽くして天命を待つ」。来年度に事務局長を務める三輪副事務局長はクールなストラテジスト。補習校を次のステージへと導く構想を練る指揮官の鋭い眼光。目に宿る光にはどのような未来が映っているのでしょうか。

下荒磯・真田 両会長 インタビュー

事務局の皆さんと座談会を行い、下荒磯・真田両会長を中心に多くの質問にお答え頂きました。厳選9つのQ & Aを紹介します。



兼
事務局長
真田会長

1. 事務局のお仕事とはざっくりどんなものか教えてください。

下荒磯さん: 学校とPTAの間、そしてPTA内部でのコミュニケーションにおける橋渡しが主な役割です。意思決定を行うというマネジメントの要素もありますが、むしろ大事なのは決定に基づいてアクションを起こし、コミュニケーションを円滑にし、サポートしていくことだと思っています。

2. 役職と役割を教えてくださいませんか？

真田さん: 会長は学校と相談して方針を決め、副会長はそのサポートを行い、事務局長は実情を踏まえPTA内部や保護者への情報伝達を行います。ただ、役割が明確に分かれている訳ではありません。

会長は会社で言うCEOのような仕事。事務局は「何でも屋さん」のような感じですね。イベントの企画をレビューしたり、相談に乗ったり、必要に応じて実行時のバックアップを行います。総会や委員会の用意をするのも事務局の仕事です。

3. なぜ会長が二人いるのでしょうか？

下荒磯さん: 2人会長制のメリットが大きいのです。対等の関係で合議することより意思決定が柔軟かつ広範に行えますし、異なるバックグラウンドからの意見があるほうが広い視野で全体を見ることができる。なによりも重圧を分散できることにより、スムーズに業務が行えます。

問題発生時など、一人だと全て飲み込まないとならないけれど、二人だと話ができますからね。それでこう、ガスが抜けるんです。そうすると冷静になるじゃないですか。

記者: 司令官は孤独が常ですものね。お二人が分かりあえているからこそ、上手く行っているのでしょうかね。

4. どんなタイプの方が向いてる仕事ですか？

下荒磯さん: 補習校活動に積極的に関わることができる人かな。熱量が高すぎても空回りしてしまうので、熱意があり、熱量をコントロールできる人が理想ですね。あとはやっぱり補習校の活動をよくしたいという思いのある人。

真田さん: わたしはどんな方でも良いと思います。これまでも皆さんちゃんとやってきてくれたから。あえて付け加えるなら、責任感があって楽しめる人かな。

下荒磯さん: 楽しいことを見つけてくれると嬉しいですね。みんなが思っているようなガチガチの組織じゃないって知ってほしいです。

真田さん: 目標として、3K（堅苦しい、怖い、関係ない）をなくしたいというのがずっとあって。これをなくして参加して楽しいPTAを作る。これが目標でした。ずいぶんと敷居を下げてきたつもりなのだけけれど。

下荒磯さん: わたしの理念としても、脱3Kはホントにその通り。

記者: 伝統的な負のイメージの払拭に力をいれてこられたのですよね。会員の皆さんにも伝わっていると思いますよ。

5. 本業との両立は難しいと想像しますが、どのようなことに注意されているか教えてください。

下荒磯さん: 他のメンバーに仕事を任せ、他の人が得意なことは任せることでメリハリをつけています。

記者: 真田さんはいかがですか？

真田さん: 「できることはさっさとする」がわたしのモットー。即座に対応できるものは遅れずに片付けています。

下荒磯さん: ほら、このように真田さんに任せていられるんですよ。でも「ちょっとシモさん、これどうなってんの!？」と言われた時は「あ、これ俺がやらなきゃいけない仕事だ!」って感じで「はい、あ、今やっています!」って。

真田さん: そうそう(笑)

記者: うーん。。なんか主従関係がにじみ出ているような。。

いやいや、相互の信頼あってこそですね。多分。



下荒磯会長

6. やってよかったと思うことはありますか？それはどう言う時ですか？

下荒磯さん： イベントの後などに良いフィードバックをいただいた時は嬉しいです。ありがたいって言ってもらえたらやっぱり嬉しいです。

真田さん： 私は質問とか困ったことを相談されることが多いので、それが解決できて喜んでもらった時に良かったなって感じます。

記者： もしかして昔サポートやってました？

真田さん： 昔も今もサポートやってます。廊下で声かけられて、あ、誰だっけ。。って。

記者： 会長あるあるですね。(記者も他の補習校で会長をしていた経験あり)

真田さん： でもそうやって声をかけてもらえるのが嬉しいですね。相談をくれるということはそれだけ敷居が低いということだから。

記者： そうですね。信頼されている証だと思います。

7. 逆に苦勞されていることは何ですか？

下荒磯さん： IT系を担当しているのですが、関連業務で苦勞することが多いですね。例えば、図書室で使う図書通知メールの設定など、裏では結構大変な作業があったりします。

記者： システム開発者の叫びですね。

下荒磯さん： だからメールが届いてないとか言われても。。

記者： そんなこと言われるんですか？

下荒磯さん： 中に人がいて、一生懸命やってるんだってこと。。忘れないでネ。♥

記者： なんか最後だいぶトーンダウンしましたね。(笑) でも私たちには見えないところで苦勞があるのですね。

下荒磯さん： でも会長としては(多くの苦勞は)ないですね。真田さんに頑張ってもらえたから。私はのびのび、色々やりたいことができました。

真田さん： わたし長老って呼ばれているのですよ。ひどいでしょう。でも今年はいろいろやったね。COVID以前の体制にプロセスを戻すのは色々大変でした。でも最後だと思ったから。

記者： 頭が下がります。



8. 今年はできなくとも将来的に改善したほうがいいと思うようなことはありますか？

真田さん： もうすぐ次年度の委員選出が始まりますが、本来ならば立候補で全てが回るのが理想なのですよね。将来的にはそれを実現したい、でもそれにはやっぱり3Kを解消しないと。

記者： 構造的な背景があるのですよね。立候補者が出ない場合。

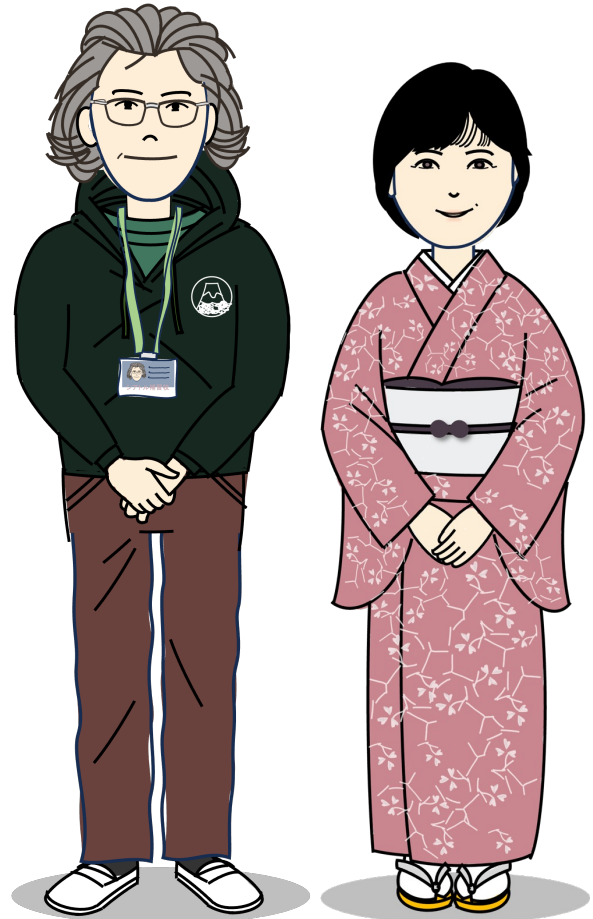
真田さん： でも近年は立候補は増えてきていて。

下荒磯さん： そう、だいぶ立候補を頂いているのはありがたいですね。

9. 最後に、来年度のPTA委員になられる方々にメッセージやアドバイスなどあれば

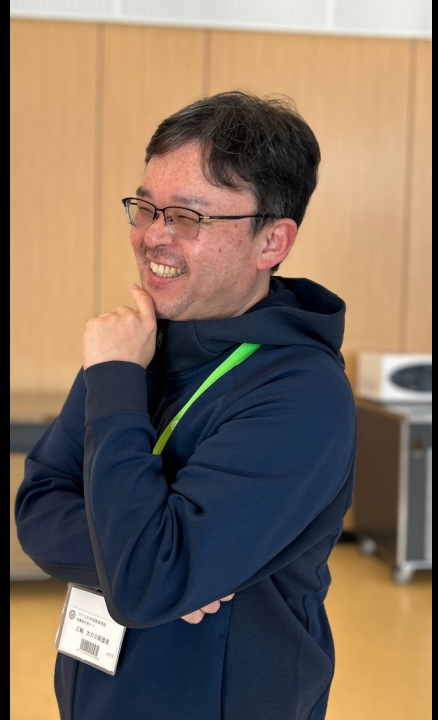
下荒磯さん： 楽しいPTAによろこそ。(ペコリ)

記者： そう来ましたか。(笑) いや、ありがとうございました。



下荒磯会長と真田会長兼事務局長

戦々恐々のインタビューを終えてみるとなんのことはない。
事務局のみなさんも私たちと同じ普通の保護者でした。
廊下ですれ違ったら、ぜひ、お声をかけてあげてくださいね。



会員の皆さんの喜びの声をきくことが一番うれしいことなのだそうです。



リクエストに応じてエア・カメラを披露してくれたデービッドさん。カメラの持ち方が想像の斜め上を行っています。多分すごい望遠レンズのカメラをお持ちなんでしょうね。

うーん。。オレ何やってんだ。。
と思っている訳ではないといい
のですが。

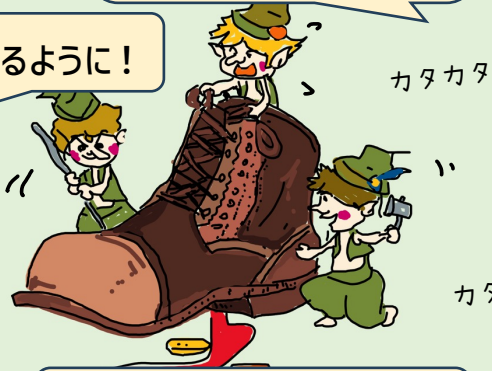


指し示すは中高年の星。。ではなく補習校の未来です。

それゆけ向いの
下荒磯君 vol.1

靴屋の小人がこっそり
夜中に靴をつくって
いるように！

いるように！



自然に動くと思ってる
かもしれないけど！

しれないけど！



DLもMGも
通知メールも！

みんな 動いて当然
と思っているかも
しれないけど！

自動で設定されてい
るって思っているかも
しれないけど！

広報部のジャン
ピエールロメオ
田村です。
どうぞよろしく。

ていうか
あなた誰？

はいこれ
マイ・カードウ
ですから

あなたごはんよ

そういうこと！

裏では人が一生
懸命やってい
ること！知って
ほしいんだ！



いやなんで
うちに
いるの？

奥さんおかわり！

たんと
おあがりなさいね

会長室兼自宅

IT案件にGOサインを出すのも自分、
号令をかけてインプリするのも自分、
サポートするのも自分、不具合が起きて
怒られるのも自分の下荒磯君であった。
(古谷徹さんの声で読もう)

さて、今回も潜入ルポは大成功だったのかはわかりませんが、記者も取材をすっかり忘れて両会長の話に聞き入っておりました。

事務局と聞くと近寄りがたい雰囲気を感じるかもしれませんが、その実態はメンバーの強固な信頼関係によって成り立っている共同体という印象を受けました。メンバー同士がお互いを頼り、任せ合える関係を築く。それにより個人の実質の作業量が軽減され、また責任を分かち合うことでストレスが分散され、冷静な判断につながるのだそうです。

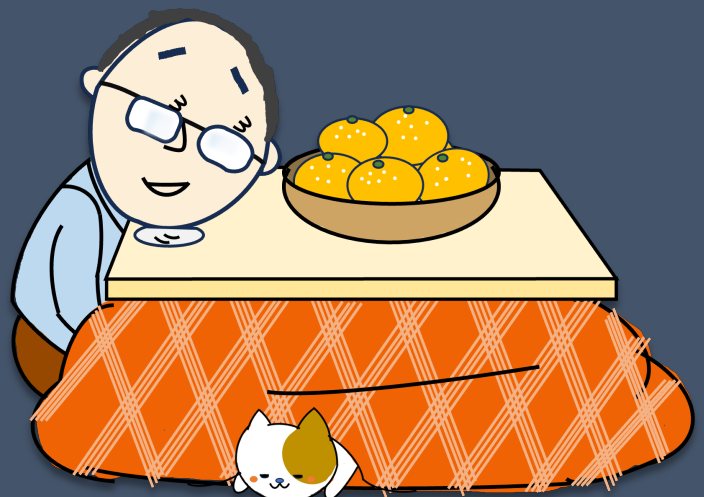
しかしながら相互信頼は相手からも信頼されてこそ成り立ちます。真田会長は事務局長単独時代を含めて7年、下荒磯会長はIT委員時代含め5年任期を務めていらっしゃるそうです。お互いのサポートが紡ぐ信頼の絆があればこそ、これだけ長い期間この重責を担うことができたのでしょうね。

今年度限りで退任の意向を表されているお二人に改めて感謝を申し上げます。ありがとうございました。そして、お疲れ様でした。

お二人は厳しい業務の中にも楽しさを見つけることの重要性を繰り返し強調されていました。これはPTA業務に限らず、私たちの生活すべてにおいて言えることかもしれませんね。

あ、もうこんな時間ですね。そろそろ次の取材に行かないと！ではみなさん、次号でお会いしましょう。

- アラン T



編集後記

事務局の年間スケジュールは多忙です。4月から5月にかけて新しい委員さんの指導、そして委員会やPTA総会の開催が行われます。6月には運動会があり、その後の9月には中高生のバレーボール大会が計画されます。これらのイベントすべてに事務局が直接関与するわけではありませんが、必要に応じてレビューやバックアップ作業が入ります。

秋学期が始まると、古本市の準備や委員会の開催が行われ、年明けから春にかけては新たな委員の選出が行われます。この期間には入学式や卒業式の挨拶も含まれます。また、新しいイベントとして、ベークセールやパーカー販売のファンドレイジングイベントが行われています。

また年間を通して多くの質疑応答があり、様々な行事に対する調整も行われています。下荒磯会長の言葉にあるように、円滑なコミュニケーションが運営上の重要な鍵となります。ボランティアとしてはかなりの時間的、そして心理的な制約があると感じました。

下荒磯・真田両会長のほか、座談会に参加された副事務局長の三輪さんや副会長のデービッドさんも、PTAに立候補する際の心理的な抵抗感について語っていました。一方で、一度初めてしまうと楽しいことも多いのだそうです。業務の中に確実に存在する楽しさ。そしてそれを広く体感してもらうには、伝統的に存在する3つのK(堅苦しい、怖い、関係ない)を取り除き、心のハードルを下げる必要がある - 真田会長の言葉です。通常業務のほかにもさまざまな事案に真摯に取り組む事務局の皆さんに、あらためて頭が下がる思いです。

次の世代にバトンが渡されても意思は引き継がれていくのでしょうかね。退任後は口出しはしない、とも。春からの週末はゆっくりお休みいただけるといいですね。

広報部 編集室

2024年 晩冬